

狩川地区地域行動計画

自然と共に 笑顔あふれる住みよいまち 狩川

～ さあいこう！ 未来の夢を風にのせて ～



夕暮れの稲

立川小学校6年 宇田優和さん

令和5年8月策定(令和6年2月発刊)
風来風流の会

目 次

地域づくりへの想い	1
1 狩川地区の概要と課題	2
2 地域行動計画の基本的な考え方と位置づけ	3
3 地域行動計画の期間	3
4 地域ビジョン	4
5 具体的な行動と年次計画	5
資料編	8



令和4年9月16日 ビジョン策定委員会スタート

地域づくりへの想い



庄内町狩川地区の皆様には、日頃から安全で活力のある住みよい地域づくりのために、風来風流の会の事業や協働作業などに、ご理解とご協力をたまわり、深く感謝申し上げます。

さて狩川地区は、庄内町のほぼ中央に位置し、昔から日本三大局地風「清川ダシ」で有名なところ。旧立川町時代には、この風を利用した全国でも珍しい、町営の風力発電所をつくり、売電をしていた時代もありました。現在は民間企業の風車が立ち並ぶ地域となっております。

郷土の偉人で、北楯大堰（平成30年度、山形県内では初めて世界灌漑遺産に登録）を造ったことで有名な北舘大学助利長公がおりますが、彼は長年の調査研究の末に、わずか3千石の収穫しかなかった土地を3万石以上の美田に変え、今の狩川ができたとされており、現在の余目地域までの水田を潤す大堰として親しまれております。

私達が住む狩川地区は、集落数21、世帯数約1,130戸、人口約3,410人の農村地域です。自治会長会の集落調査や住民アンケートをもとにコミュニティーカルテが公表されましたが、そこから見える未来は非常に厳しいものでした。全国的に言われる少子高齢化、大幅な人口減少、空き地・空き家問題、災害対応、鳥獣被害、人材不足・担い手不在など、マイナスのイメージが先行し、これから何をするのか、何をやれば変われるのか、手探りの旅立ちのような思いにとらわれました。

こうした中、令和3年10月に狩川地区地域運営組織である「風来風流の会」が発足。令和4年9月には、狩川地域ビジョン策定委員会を立ち上げ、何回かの話し合いがもたれ、その結果として、狩川地区の将来像「自然と共に 笑顔あふれる住みよいまち 狩川」、基本目標「おもいやりにあふれ、共に支え合う地域づくり」、合言葉「さあいこう！ 未来の夢をかぜにのせて」を掲げ、それを実現するために、具体的な事業の策定に取り組んで参りました。

自分の家での困りごとは誰が対応しますか、地域での困りごとは誰が対応しますか、誰かがやってくれるのを待つのではなく、自分たちで出来ることは自分たちの手でやろうとする取り組みが、今求められているのだと思います。そこには皆さんからの理解と協力が無いと出来ません。「なしてゃ！」と思う気持ちは、みな同じです。待っても解決できなければ、誰かが率先して行動することが大事だと思います。「自然と共に笑顔あふれる住みよいまち狩川」にするために、狩川の皆さんのお力が必要です。風来風流の会に、お力を貸してください。そしてみんなで住みよい楽しい町にしていきましょう。

これからも、狩川地区の皆さまからのご理解・ご支援を切にお願い申し上げます。

令和6年2月

庄内町狩川地区地域ビジョン策定委員会委員長
風来風流の会 会長 石川 俊一



◇ 狩川地区の概要

狩川地区は、庄内町のほぼ中央に位置し、地域の北側を最上川が流れ、21 集落からなる人口約 3,410 人、世帯数約 1,130 戸の農村地域です。当地区では、日本三大局地風「清川ダシ」を活用した風力発電が盛んで、自治体として初めて本格的に発電風車を取り入れた、いわば風力発電の先進地であります。

令和 3 年 10 月 24 日に地域運営組織である「風来風流の会」が発足し、令和 4 年度から、狩川公民館を狩川まちづくりセンターと名称を変えて運営しております。

◇ 庄内町狩川地区 コミュニティーカルテから見える課題

コミュニティーカルテとは、病院のカルテのように地域の課題を抽出し、その診断内容に沿って地域ビジョンを作成していくというものです。集落調査、住民アンケート、ワークショップを通じて以下のように課題をまとめました。

診断区分	診 断 内 容
集落調査から見える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化が進み、地域づくりの担い手が不足し、役員等の固定化する現状や次のリーダーがいないなどの課題がある。 ・ 人口や世帯の減少により、空き家問題等が顕在化してきている。 ・ 集落行事等の参加者が減少し、維持・継続が困難である。 ・ 集落施設や神社などの老朽化と維持管理等の負担増が課題である。 ・ 高齢者の買い物、受診、娯楽等の交通手段確保の不安がある。 ・ 除雪対策や災害時の避難方法、有害鳥獣対策等の課題がある。
住民アンケートから見える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化社会を反映し、移動支援活動、空き家対策、除雪の支援地域づくりの担い手育成等の重要性は感じているが満足度は低い。 ・ 居留意向の自由記述では除雪・交通手段の確保・冬場の厳しい生活環境などから将来不安を感じている住民も多く、住民の半数以上が地域に愛着を感じているだけに、暮らしを支える環境づくりが求められる。 ・ 地域の活力を高めるために、若者の定住促進、若年層の地域参画、地域住民の交流、イベント開催、商業施設や医療機関を増やすこと、公園や交通・除雪体制整備等の必要性を感じている住民は多い。
ワークショップの内容から見える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化による活動人口の激減と行事や活動等の担い手不足。 ・ 買い物難民などの移動支援を必要とする住民の増加。 ・ 災害時の不安、除雪対策、空き家・空き地問題、里山などの地域内の環境保全等の緊急課題への対応。 ・ いきがい、健康づくり、子育て交流の場と機会の不足。 ・ 少子化等により、祭りや伝統行事等の継承が困難で、地域から活気がなくなっていく。(異世代、世代間交流の減少) ・ 働く場所が少なく、職のある都市部へ人口流出し、商店街等が衰退。



2 地域行動計画の基本的な考え方と位置づけ

◇ ビジョン策定の目的

急激な社会現象の変化や産業の衰退、多様化する価値観、少子高齢化は近年、更にスピードを増し、これらの要因は狩川地区の存続すら危惧されるところです。

狩川地区では、庄内町の第2次総合計画に基づき、狩川の将来像を描き、安心、安全な地域づくりと住民相互の助け合う心を養い、地区民一人ひとりがコミュニティの一員として地域づくりに参画し、自主・自立の地域力・自治能力の向上を目指すとともに、それを実現するための指針を示すことを目的とします。

◇ 計画の位置づけ

この計画（ビジョン）は、狩川地区における各種計画や施策の中の最上位計画であり、住民と地区全体が目標を共有し、協力・連携、自助・共助による地域づくりを進めていくための基本指針となるものです。



3 地域行動計画の期間

◇ 令和6年度～令和10年度

本計画の計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

ただし、令和4年度から実施してきた環境整備作業、花いっぱい・さわやかあいさつ運動、風来風流フェスティバル、狩川地区展などの地区あげての事業については、見直しをしながらも継続事業として取り組む予定であります。

また、取り組むことが可能な事業などは、令和5年度から取り組みを始める場合もあります。

◇ 会議の様子



令和4年11月29日第2回作業部会



令和5年8月8日最終全体会議



将来像

自然と共に笑顔あふれる
住みよいまち 狩川

基本目標

おもいやりにあふれ、
共に支えあう 狩川

合言葉

さあいこう！
未来の夢を風にのせて



経営分野目標

豊かに人がつながる安心安全なまちづくり

環境分野目標

未来に託せる地域環境づくり

福祉分野目標

想いを話し、想いを叶えるまちづくり

教育分野目標

世代を越えて共に学び合い、ふるさとを誇りに思える人づくり

産業分野目標

地域の資源を活用した新しい仕事づくり



5 具体的な行動と年次計画

△調査・研究 ○試行・検証 ◎実施・継続 ◇修正・見直し

経営分野

豊かに人がつながる安心安全なまちづくり

施策の柱	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
● 住民の心つながる安全・安心の地域づくり ① 住民の防災意識を高め、互いに助け合う地域をつくりまします。 ② 災害時の連帯意識の高揚を図り、災害に強い地域を目指します。	・防災研修会の開催 (災害歴・避難ルート・定期点検・周知の徹底等)	△	◎	◎	◎	◇
	・災害弱者支援の体制づくり	△	◎	◎	◎	◇
	・防災訓練の実施 (近隣の状況把握・避難方法の共通理解など)	△	◎	◎	◎	◇
● みんなが活躍できる体制と機会づくり ① 若者が活躍できる場の創出と、地域の住民それぞれの出番づくりを推進します。 ② 自治会や地域づくり活動を担う次世代の人材育成に取り組みます。	・フェスティバルなどのイベントで新規の人材、出番づくりを推進	△	○	◎	◎	◇
	・若者の企画や募集によるイベント等の開催	△	○	◎	◎	◇
	・集落推薦の人材による事務局体制充実(リーダーの発掘)	△	○	◎	◎	◇
● 誰もが住みたくなる地域づくり ① 住みやすい地域、住み続ける地域を目指し、住民の地域づくりに対する想いを汲み上げ、生活に根差した課題解決に取り組みます。 ② 外との交流を活発化し、住みたくなる狩川を目指します。	・住み続ける、住みたくなる狩川ワークショップの開催	◎	◎	◇	◎	◇
	・他地区との交流事業の開催 (旅行会社等と連携し、雪合戦や農業体験など)	△	○	◎	◎	◇

環境分野

未来に託せる地域環境づくり

施策の柱	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
● 環境にやさしい美しいまちづくり ① 3R(リデュース・ごみを減らす、リユース・繰り返し使う、リサイクル・再利用)活動を実践し、SDGsに取り組みます。 ② 環境保全の住民意識高揚を図ります。	・ゴミの減量と部分マナー、リサイクルの意識向上活動(研修会など)	△	○	◎	◎	◇
	・資源リサイクルステーション設置	△	△	○	◎	◇
	・不法投棄の防止対策(看板設置等)	△	○	◎	◎	◇
	・リサイクル情報とフリーマーケット開催	△	○	◎	◎	◇
● 環境保全と意識高揚 ① 空き家・空き地の増加による危険防止と安全・安心なまちづくりに取り組みます。 ② 行政機関と連携した鳥獣被害対策を推進します。	・空き地・空き地点検パトロールの強化	△	○	◎	◎	◇
	・有害鳥獣駆除対策の仕組みづくり	△	△	◇	◎	◇
● 緑豊かなまちづくり ① 豊かな緑を守り、自然保護活動や美化活動などで、美しい狩川を目指します。 ② 地域住民によるカラフル(色鮮やか)で潤いのあるまちづくりに取り組みます。	・花いっぱい・あいさつ運動の推進	◎	◎	◎	◎	◇
	・春・秋環境整備作業の励行・推進	◎	◎	◎	◎	◇
	・楯山公園の美化活動の拡充	△	○	◎	◎	◇

福祉分野

想いを話し、想いを叶えるまちづくり

施策の柱	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
● いきいきと自立して暮らせる地域づくり ① 住民が健康で自分らしく地域の中で暮らし続ける地域づくりを目指します。 ② 高齢者の孤立をなくし、いきがいと潤いを感じられる地域づくりを目指します。	・自分の知力・体力を知る機会の提供(百歳体操など)	△	○	◎	◎	◇
	・高齢者の小さななりわいマルシェ(市場)の開催	△	◎	◎	◎	◇
● 互いに意見の言える地域づくり ① 隣組や自治会内のコミュニケーションを活発化し、互いに助け合う地域づくりを目指します。 ② 高齢者を対象とした特殊詐欺対策、高齢者の防犯意識の高揚に努めます。 ③ 子どもや高齢者の見守りを地域ぐるみで推進します。	・意見箱の設置(広報などの活用)	◎	◎	◎	◎	◇
	・独居高齢者への見守り(訪問)活動	△	○	◎	◎	◇
	・冬期間の除雪等の支援体制づくり	△	○	◎	◎	◇
● 複合施設を活用した交流と居場所づくり ① 子どもから高齢者まで気軽に交流できる拠点づくりに取り組みます。 ② 高齢者の居場所づくりを拡充し、孤立化と認知症の対策に取り組みます。	・複合施設に居場所づくり(サロン等)	△	◎	◎	◎	◇
	・各種講座・サークル活動等	◎	◎	◎	◎	◇
	・各集落で茶話会などの交流会開催	△	○	◎	◎	◇
	・仲間づくりや世代間交流の場づくり	△	○	◎	◎	◇

教育分野

世代を越えて共に学び合い、ふるさとを誇りに思える人づくり

施策の柱	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
● 生きがいと郷土愛を育む生涯学習の推進 ① 生涯学習を推進し、地域はすべて学びの教室であるというコンセプトのもと「学ぶ・遊ぶ」拠点を拡充していきます。 ② 「学校教育・家庭教育・社会教育」の連携・協働により郷土愛豊かな人材育成を推進します。	・社会教育事業の推進と学習拠点の拡充	◎	◎	◇	◎	◇
	・男性中高年のための研修会(男塾)の開催	○	◎	◇	◎	◇
	・PTA や学校、地域と連携した講座世代間交流研修会の開催	△	○	◎	◎	◇
● 未来を担う地域リーダーの育成 ① 将来のリーダー育成のための講師の招聘や研修会の開催、実践の場づくりに取り組みます。 ② 少年期から地域との関わりを持ち、互いに成長できる豊かな人間関係を育みます。	・地域づくり研修会、まちづくりセミナーの開催	◎	◎	◇	◎	◇
	・金管バンド活動を通し、地域とのふれあい活動などの推進	△	○	◎	◎	◇
● 一人ひとりがつながり、思い出あふれる地域づくり ① 子どもたちがのびのびと地域で遊び、学べる環境をつくります。 ② 交流の場を拡充し、住民の生きがいづくりを推進します。 ③ 地域内の有形、無形の資源をつなぎ、歴史から未来につながる学習環境をつくります。	・世代間交流事業(青空広場)の実施	◎	◎	◇	◎	◇
	・住民参加の生きがいづくり事業の推進(フェスティバル、スポーツ大会など)	◎	◎	◇	◎	◇
	・地域学習で人がつながり、未来に誇れる地域資源の発信	△	○	◎	◎	◇

施策の柱	具体的事業	R6	R7	R8	R9	R10
<p>● ICTを活用した積極的な情報収集と発信</p> <p>① 地域特産の情報発信や新しい産業につながる情報収集に努めます。</p> <p>② WEBショップやマルシェの開催など、住民所得の向上に取り組みます。</p>	・ICTを活用し積極的な情報の受発信	△	△	○	◎	◇
	・複合施設を拠点とした商品販売と情報発信	△	○	○	◎	◇
	・情報ツールの活用先進事例の研究と交流の促進	△	△	○	◎	◇
<p>● 自然の恵みを活かした産業おこし</p> <p>① 伝統作物や山菜等の自然食を活用した農業の6次化を目指します。</p> <p>② 農業青年や地域の若者による交流の活性化と若者が関わるコミュニティビジネスを推進します。</p>	・自然の恵みを活かした6次製品の研究開発	△	△	○	◎	◇
	・都市部では珍しい素材を活用した新たな食文化の創出	△	○	○	◎	◇
	・オーナー制度等のウェブ発信による活性化を推進	△	○	○	◎	◇
	・規格外食材を活用した無人直売所の経営	△	△	○	◎	◇
<p>● 農地の有効利用や外との交流人口の拡充</p> <p>① 耕作していない農地等を活用したイベントや賑わいづくりを推進し、地域内のネットワークを活かした外との交流人口を拡充していきます。</p>	・体験農園(ブルーベリー・ラベンダー等)を活用した交流促進	△	△	○	◎	◇
	・耕作していない農地を活用し、若者主体に交流を促進	△	△	○	◎	◇
	・里山・山林資源を活用した親子林業体験	△	○	◎	◎	◇

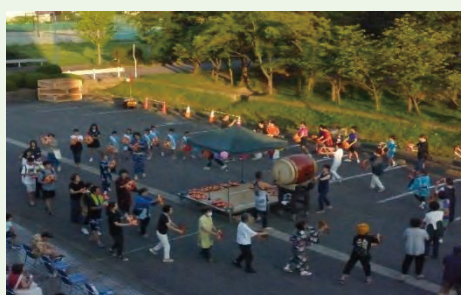
◇ R5 年度事業の様子



5月24日花いっぱい・さわやかあいさつ運動



7月18日立川複合拠点施設オープン



7月29日～30日 風来風流フェスティバル (盆踊り・水かけまつり)



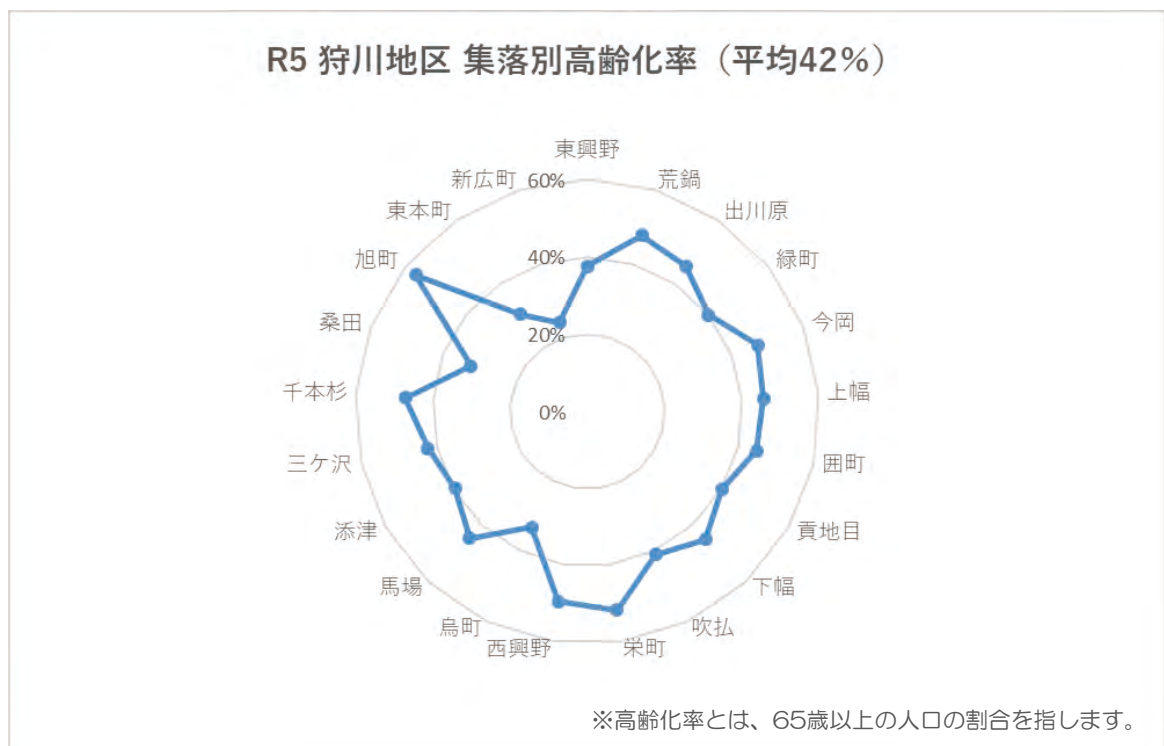
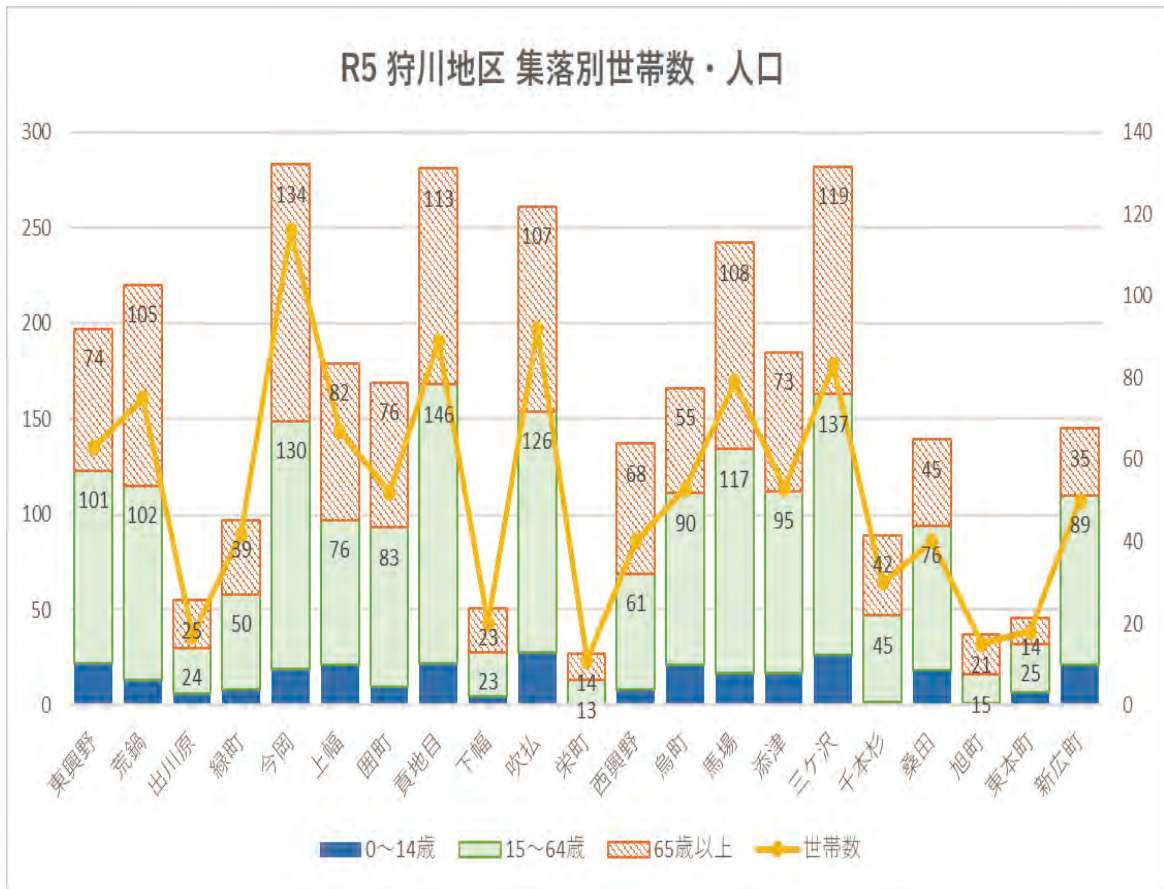
10月26日～29日 狩川地区展



11月3日 秋の環境整備作業

【資料編】

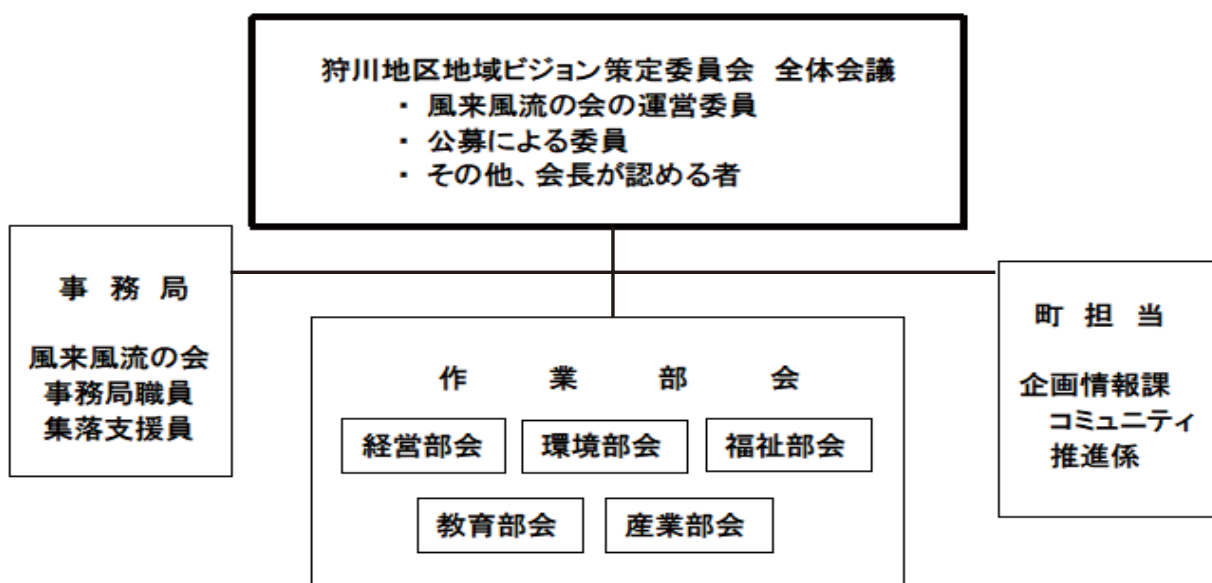
◇ 構成・世帯・人口グラフ等



◇ 沿革

令和3年	10月	・ 24日(日)狩川地区地域運営組織「風来風流の会」設立総会開催。
令和4年	3月	・ 27日(日)令和4年度「風来風流の会」通常総会開催。
	4月	・ 1日から狩川公民館は庄内町狩川まちづくりセンターとなり狩川地区地域運営組織「風来風流の会」の管理・運営が始まる。
	7月	・ 26日(火)第1回運営委員会開催。各事業の進捗状況報告、狩川地区地域ビジョン策委員会の設置の承認。
	9月	・ 16日(金)第1回地域ビジョン策定委員会の全体会議開催。 ・ 29日(木)ビジョン策定委員会第1回作業部会（5部会）の開催。
	11月	・ 17日(木)ビジョン策定委員会第2回全体会議開催。 ・ 29日(火)ビジョン策定委員会第2回作業部会開催。
令和5年	1月	・ 13日(金)庄内町役場の大会議室で余目第三学区と狩川地区の2地区合同のビジョン策定経過報告会の開催。活発な意見交換がなされた。
	2月	・ 28日(火)ビジョン策定に関する研修会の実施。
	4月	・ 18日(火)拡大事務局会議（ビジョン策定に関わるスケジュール検討）
	5月	・ 16日(火)ビジョン策定委員会第3回作業部会 ・ 30日(火)ビジョン策定委員会第3回全体会議
	6月	・ 13日(火)事務局会議 ・ 20日(火)ビジョン策定委員会第4回作業部会
	7月	・ 4日(火)事務局会議
	8月	・ 8日(火)ビジョン策定委員会第4回全体会議（最終） ・ 25日付けの「カリマチ通信」で、ビジョンの将来像・基本目標・地域づくりのテーマ（合言葉）を地域に公表
	9月	・ 10日付けの「カリマチ通信」で、ビジョンの分野目標・施策の柱と行動領域、具体的事業、年次計画（未定稿）などを地域に公表
令和6年	2月	・ 地域ビジョン「狩川地区地域行動計画」とその「ダイジェスト版」発刊

◇ 策定委員会の体系





学校の裏庭 立川小学校6年 長南龍之介さん

※ 表紙と裏表紙の絵は、「親子ふるさとカレンダー」の作品募集で、特別賞を受賞した絵です。

狩川地区ビジョン策定委員

委員長：石川 俊一		○印：部会長	※敬称略	
〔 経営部会 〕	〔 環境部会 〕	〔 福祉部会 〕	〔 教育部会 〕	〔 産業部会 〕
○阿良 直美	○太田 忠春	○田澤 縁	○石川 洋一	○佐藤 均
秋庭 亮一	安藤 一雄	井上みや子	小林えり奈	阿部 桂
佐藤 正人	齋藤 由一	大川 康平	小林 万耶	石川 精一
杉山 恵理	佐藤 智美	小野 一晴	坂本 慶治	齋藤 涉
長南 忠	佐藤 一	松田 透	齋藤 里佳	長南 佳佑
		渡部 二三	鶴巻 文臣	
			村山 能弘	

※ ビジョン策定にあたり、「きらりよしじまネットワーク」の高橋事務局長はじめ、地元にお住いの静岡文化芸術大学・阿蘇名誉教授や関係者の皆様方に、心から感謝申し上げます。